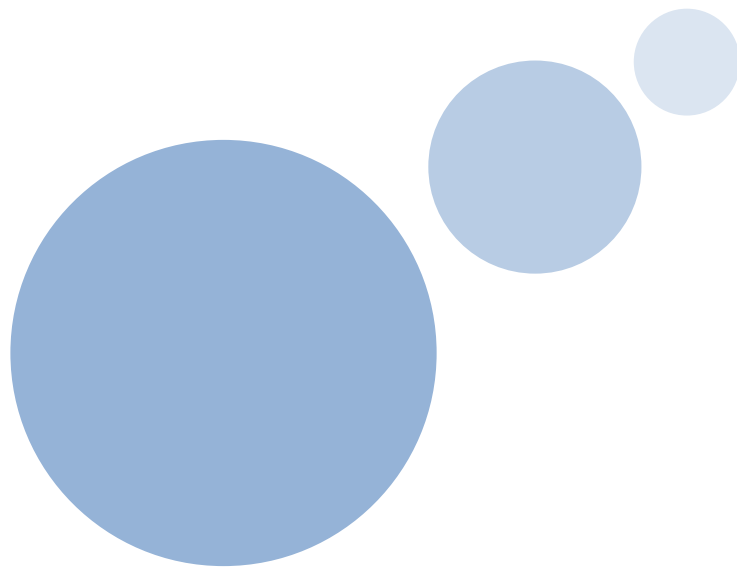


第6章 「環境の共創」重点プロジェクト



「環境の共創」重点プロジェクトとは

「第4章 区の施策」の中でも、特に、優先的かつ発展的に推進すべき取り組みや、区民・事業者・区等が協働により推進すべき取り組みを、5つの「環境の共創」重点プロジェクトとして位置づけています。

これらの取り組みを重点的かつ着実に実施し、望ましい将来の環境像の実現をめざします。

第6章 「環境の共創」重点プロジェクト

重点 プロジェクト1

安全と安心

環境監視体制の強化

プロジェクトの概要

平成23年3月11日発生した東日本大震災は、これまでの想定をはるかに超えた大きな被害をもたらしました。被災地においては、今もなお避難所生活が続いており、災害復興への道筋も見えていない状況です。

区としては、被災地への支援を継続して行っていくことと併せて、大災害の発生にも対応できるまちづくりを環境の視点からも進めていく必要があります。また、都市・生活型の公害の未然防止など、区民の健康と安全を守るための取り組みについても、さらなる強化を図る必要があります。

福島第一原子力発電所の被災に伴う放射線の問題に対しては、目に見えない放射線への不安を解消するため、正確な情報収集に努め、適切に区民・事業者へと発信するとともに、区内における放射線量の定点測定の実施体制を整備し、測定値の分析及び対策の立案等について、国や東京都、周辺自治体とも連携しながら推進していきます。また、災害発生時の課題として想定される廃棄物処理に関しても、速やかに対応できる体制を整えるものとしします。さらに、東京スカイツリー[®]の建設に伴う様々な地域環境の変化にも適切に対応していくため、周辺の交通量調査や河川水質の把握などを実施していくものとしします。

区域における都市・生活型公害の発生を未然に防止し、区民の健康で安全な生活環境を確保するため、継続して環境監視事業の実施や事業者への指導・支援等を実施するとともに、こうした環境の保全に関する情報を整理し、広報やHP等により適時適切に発信するなど、既往の体制の強化を図っていくものとしします。

こうした取り組みの方向に基づき、災害に強いまちをつくり、有事の際にも区民が安心して対応できるしくみの構築をめざします。

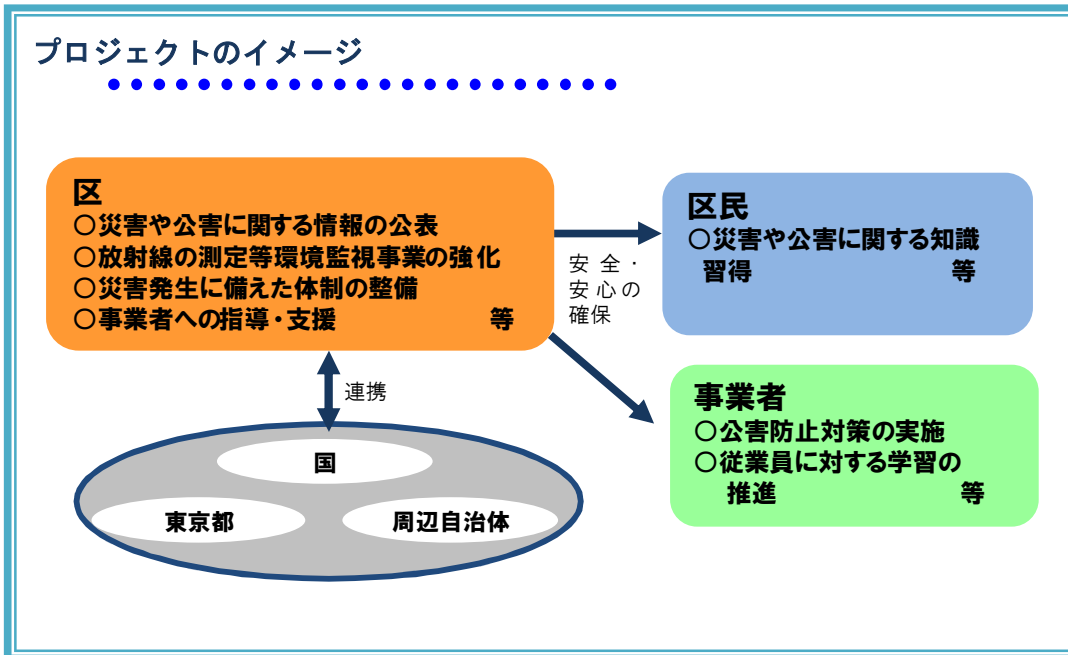
すみだ環境力指標	平成17年度 (実績値)	平成22年度 (現状値)	平成27年度 (目標値)
環境監視事業（大気、河川水質、有害化学物質）において環境基準を超えた年間件数	4件	2件	0件
放射線量が区の除染等の対応基準を超えた測定箇所数、件数	—	26箇所 45件 <平成23年度※>	0箇所 0件

※平成24年1月31日現在

プロジェクトのスケジュール

重点プロジェクト名	H23	H24	H25	H26	H27
環境監視体制の強化	体制の強化		推進		見直し

プロジェクトのイメージ



各主体の役割

- 区 民：災害や公害に関する知識の習得 等
- 事業者：従業員への災害や公害に関する学習の実施、
公害防止対策の推進 等
- 墨田区：災害や公害に関する学習の推進、環境監視事業の強化
情報発信 等

**重点
プロジェクト2**

エコライフすみだの推進

プロジェクトの概要

地球温暖化を防止するためには、一人ひとりが日常生活の中で省エネや節電等を実践することが重要となります。とくに本区の温室効果ガス排出量は、家庭部門及び業務部門が多く占めており、家庭や事業所における自主的な地球温暖化対策の取り組みをさらに底上げすることが重要です。

区では、広報活動やホームページによる情報発信、地球温暖化問題に関する意識啓発を実施していますが、より多くの区民・事業者の参加を促すためには、これまで地球温暖化対策に関心の低かった人々も広く取り込むことができる総合的な情報発信のしくみを構築していく必要があります。

そこで、区域全体が積極的に地球温暖化対策に推進していくことを目的として「エコライフすみだ」を推進します。本プロジェクトでは、「すみだエコポイント」や「省エネナビモニター制度」、「エコライフ講座」など、これまでの取り組みを一層効果的に実施するため、各種啓発事業を体系的に整備し、区民等が節電をはじめとした省エネルギー活動に取り組みやすい環境づくりを図り、省エネルギー型のエコ住宅などに関する環境情報の発信と、再生可能エネルギーの普及を推進していきます。加えて、成果が上がった取り組み事例を紹介するとともに、環境フェア等で表彰するなど、インセンティブの付与を検討していきます。

事業者に対しては、「省エネ診断事業」などにより自主的な取り組みを後押しするとともに、事業者の参加意欲を高めるための動機づけ（ホームページ等による先進的取り組み事例の紹介など）についても検討します。併せて、「地球温暖化防止設備導入助成制度」を実施するとともに、LED照明など省エネルギー機器の普及と、産学官の連携による省エネルギー型機器等の開発を推進するものとします。

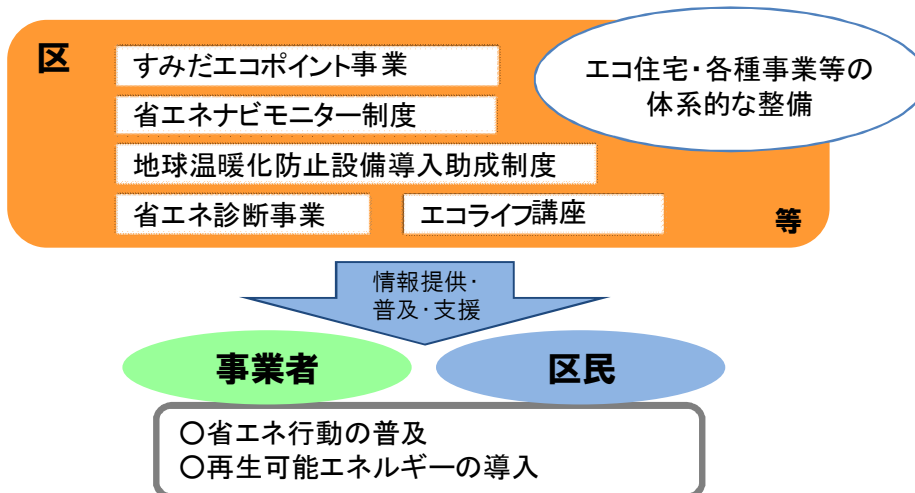
このように、区民・事業者・区が一体的に地球温暖化対策に取り組み、「地球にやさしい行動があられるまち・すみだ」の実現をめざします。

すみだ環境力指標	平成 17 年度 (基準値)	平成 22 年度 (現状値)	平成 27 年度 (目標値)
区域における温室効果ガス総排出量の削減	128.4 万 t-CO ₂ 〈平成 2 年度〉	133.8 万 t-CO ₂ (4.2%増加) 〈平成 20 年度〉	118.1 万 t-CO ₂ (8%削減)

プロジェクトのスケジュール(仮)

重点プロジェクト名	H23	H24	H25	H26	H27
エコライフすみだの推進	⇒ 実施		⇒ 検証・拡充		⇒ 見直し

プロジェクトのイメージ



各主体の役割

- 区 民：省エネルギー活動の実践、再生可能エネルギーの導入 等
- 事業者：省エネルギー活動の実践、再生可能エネルギーの導入 等
- 墨田区：各種事業の体系的な整備、再生可能エネルギーの導入・普及啓発等

重点
プロジェクト3

緑あふれる立体空間の創造

プロジェクトの概要

本区は、隅田川など豊かな水辺に恵まれています。緑被率は平成21年度で10.5%となっており、さらなる緑化の推進が望まれています。

本区は、緑化に関するボランティア活動が盛んで、緑と花のサポーターや墨田区ハンギングバスケット愛好会などの区民ボランティアや団体等が積極的に活動しています。こうしたさまざまな活動主体を支援し、協働による緑のまちづくりを進めていくことが必要とされています。

本プロジェクトでは、地域の緑を増やし、安らぎの空間を創出するために、区が率先して公共施設における壁面緑化や屋上緑化など立体的な緑化を推進していきます。さらに、区民発意による緑のまちづくりの仕組みとしての「緑と花のまちづくり推進地域制度」を推進する中で、区民ボランティアや団体等を地区単位で組織化し、緑と花のサポーター等の協力を得ながら計画的かつ効果的な緑化の手法や管理体制について検討します。また、個人や事業所における緑化を促すため、苗の配布や緑化講習会などの啓発事業を推進し、緑化フェア等でのコンテスト開催による顕彰などを検討していきます。

また、地域の緑感を高め、目に見える緑化を推進していくため、「緑と花のまちづくり推進地域制度」や「すみだ花の道整備事業」の実施、ハンギングバスケットなどの手法を織り交ぜた、新しい緑の拠点やネットワークづくりを進めていきます。

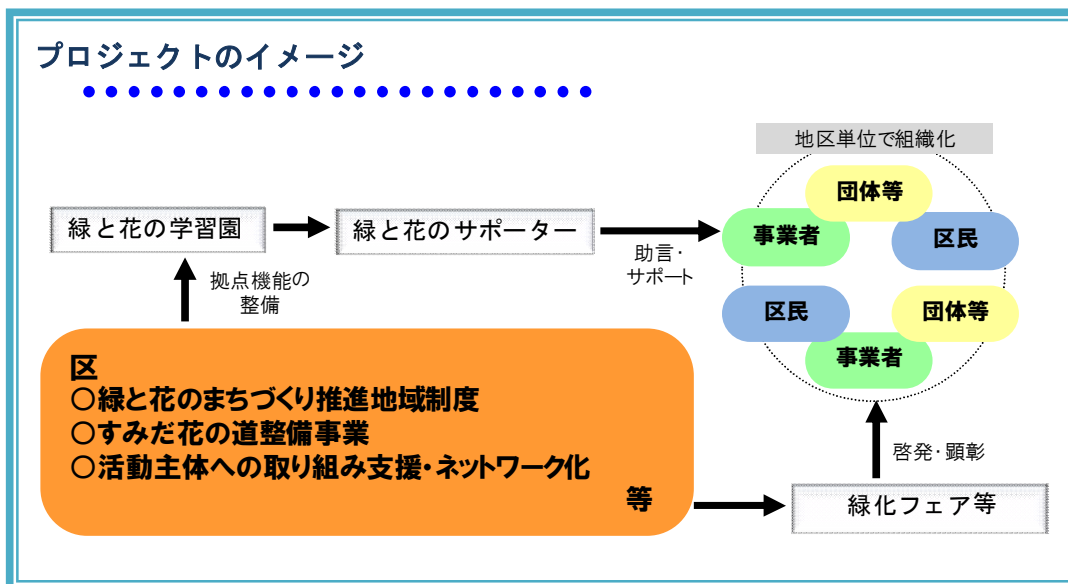
地域の緑化拠点である緑と花の学習園においては、学習や情報発信の機能を充実させるとともに、四季が感じられるミニ植物園としての整備を進めるなど、緑あふれる立体空間の創造をめざし、「墨田区緑の基本計画」の将来像「まちは百花園」を実現していきます。

すみだ環境力指標	平成17年度 (実績値)	平成22年度 (現状値)	平成27年度 (目標値)
みどり率	20.1% <平成12年度>	20.5% <平成21年度>	22.8%
緑被率	9.4% <平成12年度>	10.5% <平成21年度>	13.0%

プロジェクトのスケジュール(仮)

重点プロジェクト名	H23	H24	H25	H26	H27
緑あふれる立体空間の創造	⇒ 実施		⇒ 検証・拡充		⇒ 見直し

プロジェクトのイメージ



各主体の役割

- 区 民：自宅での緑化活動の実施、地域での緑化活動への参加 等
- 事業者：地域での緑化活動への参加、関連備品の提供 等
- 墨田区：各主体のネットワーク化、各主体が協働できるしくみづくり等
- ボランティア団体（緑と花のサポーター等）：
地域における緑化活動の助言、サポート 等

**重点
プロジェクト4**

すみだエコモデル事業の推進

プロジェクトの概要

東京スカイツリー®の開業は、本区だけでなく社会的にも注目を集めており、観光客や来街者等の交流人口の増加や産業の活性化などが期待されています。こうした機運を活かし、産業振興と併せて環境への取り組みを推進していくことは、区内外における環境配慮行動の実践を広く波及させ、持続可能なまちづくりを実現する契機とすることも期待できます。また、東京スカイツリー®は、先進的な環境配慮設備等を備えており、本区の環境保全への取り組みのランドマークとなる可能性を持っています。

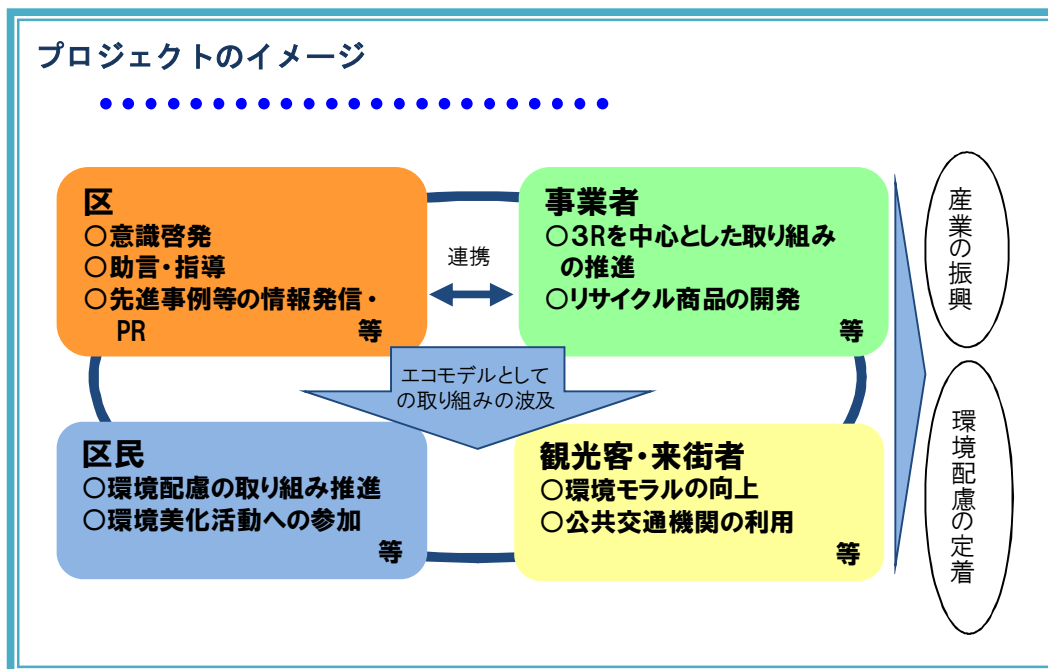
本プロジェクトでは、東京スカイツリー®及び周辺地域を観光と環境の拠点として位置づけ、関連事業者との連携による「すみだエコモデル事業」を立ち上げ、今後事業系ごみの増加が見込まれることを踏まえ、3Rを中心に、統一的なルールづくりを検討しながら、地域への環境配慮の取り組みを推進していきます。なお、本事業における先進的な取り組み事例については、地域内外において積極的に発信・PRすることにより、普及促進していきます。また、3Rの一環として、再資源化できる資源物からリサイクル商品を開発することも検討し、雨水利用の推進についても、継続して積極的に取り組むものとしします。

東京スカイツリー®周辺の環境を快適な状態に保つためには、区内への観光客や来街者の協力を得ることも必要です。地域は、環境美化に努めるなど「おもてなしの心」を持って迎えるとともに、環境モラルの向上や公共交通機関の利用などを呼びかけることにより、訪れた人々にも、環境への「ちょっとした気遣い」として行動してもらえよう周知・啓発していきます。

すみだ環境力指標	平成 17 年度 (実績値)	平成 22 年度 (現状値)	平成 27 年度 (目標値)
ごみの発生量、削減率	93,123 トン	85,190 トン 8.5%削減 <平成 21 年度>	81,000 トン 13.4%削減
ごみの資源量、資源化率	13,725 トン 16.4%	13,984 トン 19.4% <平成 21 年度>	14,300 トン 21.7%

プロジェクトのスケジュール(仮)

重点プロジェクト名	H23	H24	H25	H26	H27
すみだエコモデル事業の推進		→ しくみ検討	→ 推進		→ 見直し



各主体の役割

.....

区 民： 環境美化活動等への参加 等

事業者・リサイクル団体等：
環境配慮の取り組み推進、リサイクル商品の開発 等

墨田区： 環境配慮への啓発、情報発信 等

観光客・来街者： 環境配慮の実践 等

**重点
プロジェクト5**

つなげよう

環境活動のネットワークづくり

プロジェクトの概要

本区には、環境ふれあい館をはじめとした環境活動や環境学習の拠点が整備され、地球温暖化やごみ、雨水利用、緑、自然など環境について学び・体験する機会も豊富です。また、エコライフサポーターや緑と花のサポーターなどの人材育成の推進も図られています。今後も、こうした取り組みのさらなる推進が期待されますが、前述までの各重点プロジェクトを実行し、「環境の共創」に資する活動を地域全体へ広げていくためには、これら既往の取り組みや拠点を活かした環境活動の仕組みを再構築し、人づくりや活動の場づくりを進めていくことが必要になります。

本プロジェクトでは、環境ふれあい館や緑と花の学習園などの環境に関する拠点の再構築を行い、環境学習や情報発信の場としての機能充実に努めるとともに、環境活動団体等による情報交換などの交流を支援する場として利便性を高めていきます。また、これまで蓄積してきた環境体験学習プログラムの体系的な整備を進め、区民等がより主体性を持って環境活動に参加できるよう地域と協力したモデル事業の立ち上げについても検討していきます。さらにエコライフサポーターなど環境リーダーの活動の場を創出するため、各種啓発事業への参加や環境関連イベントの開催における協力など積極的に連携していきます。

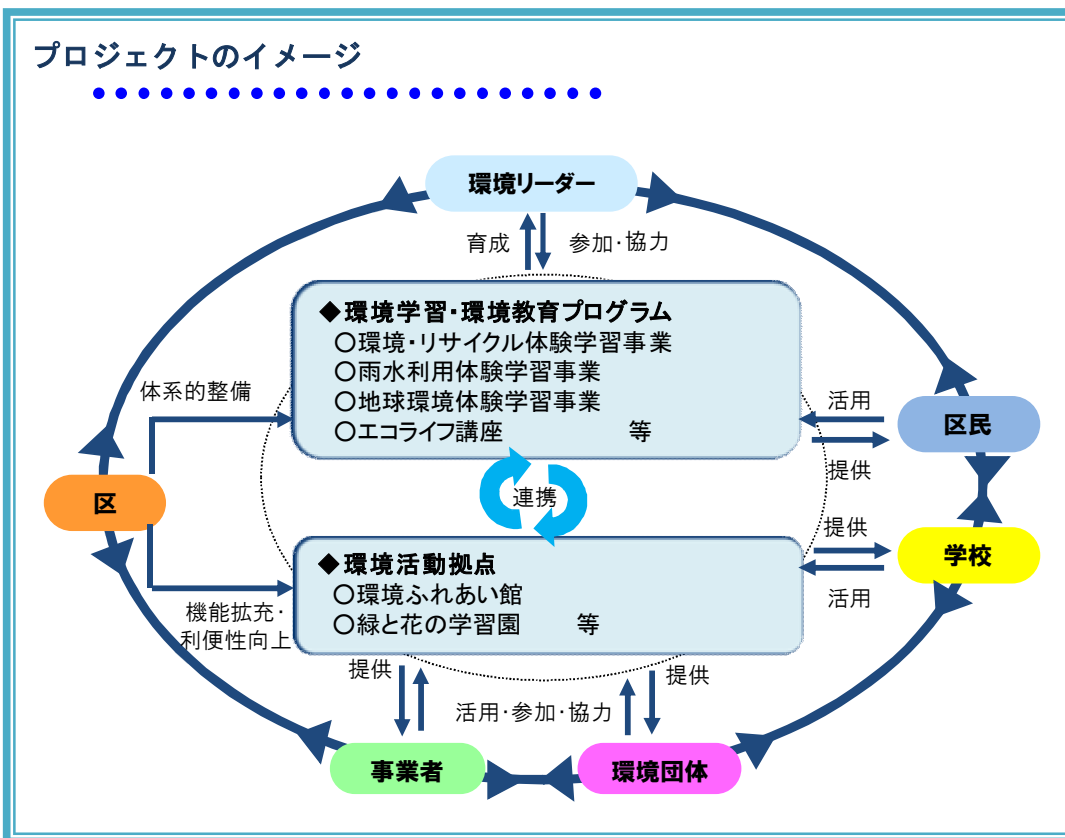
将来にわたり本区の環境を良好な状態に保ち、引き継いでいくためには、未来を担う子どもたちへの環境教育を推進し、環境に配慮した生活を身につけることができる人材として育成していく必要があることから、学校を環境教育推進の拠点の一つとして本プロジェクトに位置づけ、連携を進めていくものとします。

すみだ環境力指標	平成 17 年度 (実績値)	平成 22 年度 (現状値)	平成 27 年度 (目標値)
環境体験学習事業の実施回数、参加者数	50回 1,000人	178回 4,314人	200回 5,000人
環境ボランティア数（緑と花のサポーター、エコライフサポーターの登録者数）	44人	60人	100人
環境リーダー数（自然環境観察員の登録者数）	—	39人	80人

プロジェクトのスケジュール(案)

重点プロジェクト名	H23	H24	H25	H26	H27
環境活動のネットワークづくり	⇨ しくみ構築		⇨ 推進・拡充		⇨ 見直し

プロジェクトのイメージ



各主体の役割

- 区 民：環境体験学習等への参加 等
- 墨田区：環境体験学習プログラムの体系化、情報収集・整理・発信 等
- 環境リーダー：環境体験学習等における指導 等
- 環境団体・事業者等：情報交換、環境学習体験等への協力・連携 等
- 学 校：環境教育活動の推進、環境体験学習プログラムの導入 等